Fiery Hot Folders

© 2026 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2026 年 11 月 9 日

目次

Fiery Hot Folders 5
Fiery Hot Folders コンソール 6
ホットフォルダーの作成 6
新しいホットフォルダーを作成する 6
Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する 7
ホットフォルダーにジョブアクションを指定する 8
Hot Folders の環境設定を指定する 9
Hot Folders のアクティベート 9
すべてのホットフォルダーを停止して再開する 10
ホットフォルダーを管理する 10
ホットフォルダーを編集する 10
ホットフォルダーを複製する 11
ホットフォルダーの名前を変更する 11
ホットフォルダーを削除する 11
オリジナルのジョブファイルにアクセスする 12
ホットフォルダーにジョブを送信する 12
ホットフォルダーにジョブを送信する 12
複数のジョブをフォルダーとして送信する 13
フォルダー内にある複数のファイルで構成されるジョブを送信する 13
状況およびログウィンドウを表示する 13
ホットフォルダーのジョブの進行状況を表示する 13
ホットフォルダーのログを表示する 14
ホットフォルダーのエラーの詳細を表示する 14
「ログ」ウィンドウのログを消去する 14
ジョブのプロパティ 14
ジョブのプロパティのグループ 15
ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定する 16
プリセットの使用 16
ローカルプリセットの作成 17
ローカルプリセットの編集 17
ローカルプリセットを削除/名前を変更する 17
サーバープリセットを作成する 18
カスタムプリセットについて 18
ロック済みサーバープリセットについて 19
サーバープリセットの編集、削除、非公開 20

サーバープリセットのエクスポートとインポート 21
面付けテンプレート 22
面付けテンプレートを編集する 23
定義済み面付けテンプレート 24
ホットフォルダーの入力形式 27
出力ファイルの種類 27
入力形式を指定する 27
Hot Folders フィルター 27
一般フィルター 28
Microsoft フィルター 33
JDF フィルター 35
パススルーフィルター 36
プリフライト 36
プリフライト設定を指定する 37
Fiery Preflight Pro 37
ホットフォルダー用 Preflight Pro 設定を構成する 38
JobExpert を Fiery Hot Folders に追加する 39
バックアップ/復帰 39
ホットフォルダーのバックアップ 40
オリジナルファイルのバックアップ 41
ホットフォルダーを復元する 41
Fiery IQ クラウドへのバックアップおよび復元 41
Fiery IQ クラウドへのアクセス 42
Fiery Hot Folders をバックアップする 42
Fiery Hot Folders を復元する 42
Hot Folders のトラブルシューティング 43
Fiery サーバーが応答しない 43
ホットフォルダーが Fiery サーバーに接続できない 43
Hot Folders コンソールに Hot Folder が表示されない 44
オリジナルファイルが見当たらない 44
ジョブ失敗 44
最適なパフォーマンスの維持 44

Fiery Hot Folders

Fiery Hot Folders アプリケーションでは、あらかじめ定義された設定に従って Fiery サーバーにファイルを迅速かつ自動的に送信することができ、複数のジョブや頻繁に使用するレイアウトに対して同じオプションを何度も設定する手間を省きます。

このアプリケーションを使用すると、ホットフォルダーをいくつでも作成でき、各ホットフォルダーには特定の出力種類に応じて個別の印刷設定プロファイルを使用できます。ホトフォルダーごとにジョブアクションを割り当て、Fiery サーバーでジョブの処理方法を指定することで、印刷プロセスをさらに合理化できます。ホットフォルダーを使用すると、ファイルを作成したアプリケーションを起動しなくても Fiery サーバーにファイルを直接送信できます。ホットフォルダーはネットワーク上で共有できるため、受取人のシステムにアプリケーションをインストールすることなく、簡単にジョブを転送できるようになります。Hot Folders をシステムにインストールしている場合は、ホットフォルダーを作成すると、そのホットフォルダーはハードディスク上に特殊なフォルダーとして存在し、ジョブに関する情報を含むすべてのファイルとサブフォルダーを格納します。

次のような場合は、フォルダーは「ホット」であるとみなされます。

- Fiery サーバーに接続している
- Hot Folders アプリケーションで監視されている
- あらかじめ定義された印刷オプションで設定されている（オプション）
- 面付け設定を使用して設定されている（オプション）
- ファイルフィルターとアプリケーション固有の形式を使用して設定されている（オプション）

Hot Folders ソフトウェアのプロセスはバックグラウンドで実行され、アクティブなホットフォルダーを常時監視して印刷または処理する新しいジョブがないかどうかを確認します。ホットフォルダーに指定するジョブアクションは、Fiery サーバーでのジョブの処理方法を指定します。

Hot Folders アプリケーションは、ローカルシステムで作成されたホットフォルダーについてはすべて監視しますが、他のシステムで作成されたホットフォルダーは監視しません。

Hot Folders アプリケーションには次のものが含まれます。

- **Fiery Hot Folders コンソール**：ユーザーの Hot Folders にアクセスし、場所、ジョブアクション、および各ホットフォルダーの現在の設定に関する概要情報を確認できます。
- **状況およびログ**：進行中のファイルの状態を監視し、Hot Folders によって処理されるすべてのファイルのログを表示できます。
- **ジョブのプロパティ**：ジョブのプリセットなどの印刷オプションと面付けソフトウェアにアクセスできます。
- **入力形式**：フィルターとアプリケーション固有の印刷設定にアクセスします。これらの設定は、オリジナルのアプリケーションを開いたりインストールしたりしなくても、ホットフォルダーを通じて設定できます。
- **プリフライト設定**：プリフライトにアクセスできます。プリフライトを有効にすると、送信されたジョブにエラーがないかどうかを印刷前に確認できます。
- **バックアップおよび復帰**：コンピューター上に存在する Hot Folders をバックアップ/復帰します。

Fiery Hot Folders コンソール

Fiery Hot Folders コンソールを使用すると、Hot Folders にアクセスし、場所、ジョブアクション、および各ホットフォルダーの設定に関する情報を確認できます。

Fiery Hot Folders コンソールから**状況およびログ**にアクセスできます。コンソールとは別のウィンドウが開き、ホットフォルダーによって処理されるすべてのジョブを監視および追跡できます。

コンソールには次のものが含まれます。

- メニュー：Hot Folders の作成および管理コマンド、環境設定コマンド、**バックアップおよび復元**にアクセスするためのコマンドを提供します。
- タスクバー：メニューや**状況およびログ**のほとんどのコマンドに迅速にアクセスできます。
- サーバーリスト：接続されているすべての Fiery サーバーに関連する Hot Folders を一覧表示します。サーバーリストを折りたたんだり展開したりすることで、各 Fiery サーバーに接続されている Hot Folders を表示できます。
- ホットフォルダーサマリー：選択したホットフォルダーの設定に関する情報を表示します。
- **ジョブのプロパティ**：選択したホットフォルダーに設定されているジョブのプロパティのサブセットに関する情報を表示します。

  メモ：Fiery Hot Folders コンソールには、ジョブのプロパティのサブセットのみが表示されます。ジョブのプロパティの詳細表示については、ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定する（16 ページ）を参照してください。

ホットフォルダーの作成

ホットフォルダーは、いくつでも作成できます。また、ホットフォルダーごとに特定の出力種類に応じて印刷設定プロファイルを変更することもできます。

新しいホットフォルダーを作成するときは、次の事項が適用されます。

- ホットフォルダーを Fiery サーバーに接続します。
- 新しいホットフォルダーの名前に既存のフォルダーと同じ名前は使用できません。
- 共有ファイルサーバーなどのネットワークドライブにホットフォルダーを作成することはできません。

新しいホットフォルダーを作成するたびに、Hot Folders アプリケーションは自動的に下位フォルダーを作成します。下位フォルダーの 1 つには、ホットフォルダーに送信されたジョブのオリジナルファイルが、ジョブの印刷後に保存されます（Hot Folders がオリジナルファイルを保存するように設定されている場合）。オリジナルファイルは、現在の日付と時間（YYYYMDHHMMSec）に基づくファイル名でアーカイブされます。

新しいホットフォルダーを作成する

新しいホットフォルダーを作成するときは、ジョブのプロパティとその他の設定を指定します。これらは、接続する Fiery サーバーによって決まります。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で**新規**をクリックし、**ホットフォルダー設定**ウィンドウを表示します。

2 **フォルダー名**フィールドにホットフォルダーの名前を入力します。

3 オプションで、**説明**フィールドにホットフォルダーの説明と詳細情報を入力します。

4 **参照**をクリックし、フォルダーの場所を指定します。

5 **選択**をクリックして Fiery サーバーを指定し、接続します。
手順については、Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する（7 ページ）を参照してください。

6 **ジョブアクション**メニューから Fiery サーバーキューまたはアクションを選択します。
詳細は、ホットフォルダーにジョブアクションを指定する（8 ページ）を参照してください。

7 次の設定を行います。

- ホットフォルダーにジョブのプロパティ（印刷および面付け設定）を指定するには、**ジョブのプロパティ**メニューの**定義**を選択します。
- 入力形式（フィルターとアプリケーション固有の形式）を指定するには、**入力形式**の横にある**編集**をクリックします。
- ホットフォルダーに送信されたジョブのプリフライトチェックを有効にするには、**プリフライト**を選択します。

  メモ：プリフライトがサポートされるのは、一部の Fiery サーバーに限られます。
- 新しいジョブをチェックする間隔を設定するには、**詳細設定**をクリックし、**カスタム**をクリックして、新しい間隔を入力します。

  複数パートのジョブをホットフォルダーに送信する予定がある場合、この間隔を 10 秒以上に設定することをお勧めします。詳細は、フォルダー内にある複数のファイルで構成されるジョブを送信する（13 ページ）を参照してください。

Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する

Fiery Hot Folders コンソールの**ホットフォルダー設定**ウィンドウで、**サーバーに接続**ウィンドウにアクセスします。**サーバーに接続**ウィンドウで、利用可能な Fiery サーバーから指定、検索、および選択し、**お気に入りリスト**に追加できます。その後、**お気に入りリスト**から Fiery サーバーを選択できます。

1 **サーバーに接続**ウィンドウを開くには、**ホットフォルダー設定**ウィンドウの**サーバー名**フィールドの右側にある**選択**をクリックします。

2 **サーバーに接続**ウィンドウで、次の操作を行います。

- Fiery サーバーを IP アドレスまたはサーバー名で指定するには、**サーバーに接続**フィールドに IP アドレスまたはサーバー名を入力します。**接続**をクリックして、**ホットフォルダー設定**ウィンドウに戻ります。

  IP アドレスを入力すると、最初は入力した IP アドレスがサーバーリストに表示されますが、接続が認証されると IP アドレスが Fiery サーバー名に切り替わります。
- Fiery サーバーを検索して接続するには、検索アイコンをクリックして**検索**ウィンドウを開きます。検索結果の一覧から Fiery サーバーを選択し、**追加**、**接続**の順にクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウに戻ります。
- Fiery サーバーに接続するには、**お気に入りリスト**から Fiery サーバー名を選択して**接続**をクリックし、**ホットフォルダー設定**ウィンドウに戻ります。

- 指定の Fiery サーバーを**お気に入りリスト**に追加するには、プラス記号（+）をクリックします。
- Fiery サーバーを**お気に入りリスト**から削除するには、リストから Fiery サーバー名を選択し、マイナス記号（-）をクリックします。

異なる Fiery サーバーに既存のホットフォルダーを接続する

各ホットフォルダーを Fiery サーバーに接続する必要があります。ユーザーが新しいホットフォルダーを作成すると、接続が設定されます。

1. **Fiery Hot Folders コンソール**でホットフォルダーを選択し、**アクティベート解除する**を選択します。
2. **編集**をクリックします。
3. **選択**をクリックして**サーバーに接続**ウィンドウを開きます。
4. Fiery サーバーを指定します。

ホットフォルダーにジョブアクションを指定する

ホットフォルダーを Fiery サーバーに接続するときは、**ジョブアクション**を指定して、Fiery サーバーでのジョブの処理方法を設定する必要があります。

ジョブアクションによっては、Fiery サーバーでサポートされていない場合や、サポートはされているが有効になっていない場合があります。

1. **Fiery Hot Folders コンソール**でホットフォルダーを選択し、**編集**をクリックします。
2. **ホットフォルダー設定**ウィンドウで、**ジョブアクション**メニューから次のいずれかを選択します。
   - *デバイス名* **待機**：ジョブ**を**待機キューに送信します。ジョブは Fiery サーバーのハードディスクにスプールされ、以降の印刷のためキューに保持されます。
   - *デバイス名* **印刷**：ジョブを**印刷**キューに送信します。受信したジョブから順番に処理および印刷されます。
   - *デバイス名* **直接**：ジョブを**直接**接続に送信します。ジョブは、Fiery サーバーが使用可能な場合にのみ処理されます。Fiery サーバーが使用中の場合は、Fiery サーバー使用可能になるまで、ジョブはキューに残ります。ジョブは以前のジョブが終了するとすぐに、キューに待機している次のジョブが処理される前に処理されます。

     直接接続に送信されたジョブを再印刷、移動、または削除するように指定することはできません。そのため、**直接**接続は、機密ファイルのためのセキュリティ対策となります。**直接**接続に送信されたジョブは、記録のために、ジョブログに*表示*されます。

     直接接続を選択する場合、**ジョブのプロパティ**は無効で、**プリフライト**は利用できません。
   - **処理後待機**：ジョブを処理した後、処理済みジョブを以降の印刷のために**待機**キューに配置します。
   - **印刷後待機**：ジョブを処理および印刷した後、再印刷または将来の使用のために、処理済みジョブを**待機**キューに配置します。

- **印刷後削除**：ジョブを処理および印刷した後、処理済みジョブを削除します。ジョブは**印刷済み**キューには表示されません。
- **プルーフ印刷**：ジョブを処理して 1 部印刷します。このジョブアクションは、ジョブで呼び出された部数を印刷する前に、ジョブ出力を確認する際に役立ちます。

Hot Folders の環境設定を指定する

全ホットフォルダー適用する環境設定を指定できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**編集 > 環境設定**（Windows の場合）または **Fiery Hot Folders > 環境設定**（Mac OS の場合）の順に選択します。

2 次のいずれかまたは複数の環境設定を指定します。

- **単位**：Fiery サーバーが面付けをサポートしている場合は、Fiery Impose で使用するデフォルトの測定単位を設定します。
- **ジョブを確認する間隔** - 新しいジョブを確認するデフォルトの時間間隔を設定します。間隔を長く設定すると、大きなファイルや複数パートのファイルをホットフォルダーで処理する場合に、問題の発生を防止できます。

  メモ：特定のホットフォルダーの設定で、デフォルトの時間間隔を変更できます。
- **オリジナルファイル保存場所** - オリジナルファイルをアーカイブする場所を指定します。デフォルトでは、オリジナルファイルは、ホットフォルダー内に自動的に作成される下位フォルダーにアーカイブされます。別の場所を指定すると、全ホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。
- **原稿ファイル消去** - アーカイブ済みオリジナルファイルを消去するまでのデフォルトの時間間隔を設定します。
- **サーバープリセットにリンクしている Hot Folders を自動リフレッシュ** - Hot Folders で（**Fiery Hot Folders コンソール**内の）サーバープリセットの設定の表示を特定の時間間隔で更新できます。

Hot Folders のアクティベート

アクティブなホットフォルダーは、Hot Folders アプリケーションで監視されます。アクティベート解除された Hot Folders は監視されません。

Fiery Hot Folders コンソールにある**アクティベートする**および**アクティベート解除**の各アイコンは、ホットフォルダーの状況に応じて使用可能またはグレー表示になります。ホットフォルダーがアクティベートされている場合、**アクティベートする**は選択できません。ホットフォルダーがアクティベート解除されている場合、**アクティベート解除**は選択できません。

設定または Fiery サーバー接続をアップデートする場合、あるいはホットフォルダーを削除、編集、または名前を変更する場合は、最初にフォルダーをアクティベート解除する必要があります。

ホットフォルダーをアクティベート/アクティベート解除する

アクティブなホットフォルダーは、Hot Folders アプリケーションによって監視されます。アクティベート解除されたホットフォルダーは監視されません。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - ホットフォルダーをアクティベート解除するには、**Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーを選択し、**アクティベート解除する**をクリックします。
  - ホットフォルダーをアクティベートするには、**Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーを選択し、**アクティベートする**をクリックします。

すべてのホットフォルダーを停止して再開する

ホットフォルダーの監視は、いつでも停止および再開できます。
Hot Folders アプリケーションを開くと、ホットフォルダーアプリケーションは、ホットフォルダーを継続的に監視し、Hot Folder に送信されるすべてのジョブを処理します。すべてのホットフォルダーを停止すると、処理が停止し、すべてのホットフォルダーを再開するまで、ホットフォルダーはすべて無効になります。

1 **ファイル** > **全ホットフォルダー停止**をクリックしてホットフォルダーをすべて停止します。

2 **ファイル** > **全ホットフォルダー開始**をクリックしてホットフォルダーをすべて再開します。

ホットフォルダーをすべて再開すると、ホットフォルダーはすべて以前の状態（アクティベートされた状態またはアクティベート解除された状態）に戻ります。

ホットフォルダーを管理する

ホットフォルダーを編集、複製、削除、および名前を変更できます。

ホットフォルダーを編集する

ホットフォルダーを編集するときは、まず、Hot Folder をアクティベート解除してオフラインにします。その後、**ホットフォルダー設定**ウィンドウにアクセスして変更を行います。

メモ：ジョブアクション、**ジョブのプロパティ**、**入力形式**、**詳細設定**の変更は、Hot Folder をアクティベート解除しなくても行えますが、それ以外の設定は変更できません。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、編集するホットフォルダーを選択し、タスクバーで**アクティベート解除する**をクリックします。

2 編集するホットフォルダーを選択し、**編集**をクリックします。

3 必要に応じて、設定を編集します。

すべての変更がすぐに反映され、今後ホットフォルダーで処理されるすべてのジョブに適用されます。

ホットフォルダーを複製する

既存のホットフォルダー（アクティベート済み/アクティベート解除済みを問わず）の設定を複製して新しいホットフォルダーを作成できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、複製するホットフォルダーを選択し、**複製**をクリックします。

2 必要に応じて、複製したホットフォルダーの名前を変更し、**OK** をクリックします。

ホットフォルダーの名前を変更する

ホットフォルダーの名前を変更するときは、まず、ホットフォルダーをアクティベート解除します。ホットフォルダーをアクティベート解除すると、ホットフォルダーはオフラインになり、使用中のホットフォルダーが変更されるのを防止できます（ホットフォルダーはネットワーク上で共有されている場合があります）。その後、**Fiery Hot Folders コンソール**からホットフォルダーの名前を変更できます。

⚠ 注 意 **Fiery Hot Folders コンソール**を使用して、ホットフォルダーの名前を変更します。このとき、Windows および Mac OS ファイルの名前変更機能を使用しないでください。Windows でホットフォルダーの名前を変更しようとすると、**Fiery Hot Folders コンソール**を使用するよう指示するエラーメッセージが表示されます。Mac OS でホットフォルダーの名前を変更しようとすると、エラーは発生しませんが、ホットフォルダーが無効になります。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、名前を変更するホットフォルダーを選択し、タスクバーで**アクティベート解除する**をクリックします。

2 **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックします。

3 **フォルダー名**フィールドに新しい名前を入力します。

ホットフォルダーを削除する

ホットフォルダーを削除するには、まずホットフォルダーをアクティベート解除します。その後、ホットフォルダーを削除します。ホットフォルダーを削除すると、ホットフォルダーとその下位フォルダーが永久に除去されます。

ホットフォルダーはネットワーク上で共有されることがあるため、ホットフォルダーをアクティベート解除すると、使用中のホットフォルダーが削除されるのを防止できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、削除するホットフォルダーを選択し、**アクティベート解除する**をクリックします。

2 **削除**アイコンをクリックします。

3 確認画面で**はい**をクリックします。

⚠ 注 意 ホットフォルダーを削除すると、そのホットフォルダーに関連するファイル（ジョブログ、Fiery server 設定、Fiery server に未送信のファイルなど）がすべて削除されます。

オリジナルのジョブファイルにアクセスする

Fiery Hot Folders コンソールからオリジナルのジョブファイルにアクセスできます。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーを選択し、**オリジナルファイル表示**をクリックします。
  - デスクトップで、ホットフォルダーをダブルクリックし、**[_Fiery_HotFolder_]**をダブルクリックして、**[MoveFolder]**をダブルクリックします。

ホットフォルダーにジョブを送信する

Fiery Hot Folders コンソールまたはデスクトップから 1 つ以上のジョブを送信できます。ジョブは、指定されたキューに送信されるか、指定されたアクションに従って処理されます。

ジョブのプロパティ設定がホットフォルダーに送信されるジョブに適用されます。ジョブのプロパティで**デフォルト**を設定した場合、ジョブは Fiery サーバーのデフォルト設定で印刷されます。プリセットを選択した場合、ジョブはプリセット設定で印刷されます。詳細については、ジョブのプロパティ（15 ページ）を参照してください。

プリフライトチェックは潜在的なジョブのエラーを検出します。チェックするエラーと、重大なエラーが検出された場合に実行するアクションを設定できます。

Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバー上にある PDF ジョブの場合、 Fiery Preflight Pro を使用してこれらのチェックを実行できます。詳細は、Fiery Preflight Pro（37 ページ）を参照してください。

一部のファイル形式は、複数のファイルで構成され、それらのファイルの中には、表示されないものや、ヘッダーや他の情報を含むものがあります。ホットフォルダーを使用して複数のファイルで構成されるジョブを処理する場合は、フォルダー内にあるすべてのジョブファイルを送信します。これにより、すべてのファイル（非表示のファイルを含む）を確実に処理します。また、ジョブを確認する間隔を 10 秒以上に設定し、処理が始まる前にすべてのファイルを確実に揃えることをお勧めします。

ホットフォルダーにジョブを送信する

ホットフォルダーを経由して、またはデスクトップから、Fiery サーバーにジョブを送信できます。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - **Fiery Hot Folders コンソール**でホットフォルダーを選択し、タスクバーで**ファイルのダウンロード**をクリックします。次に、ダウンロードするファイルを参照するか、ファイル名を入力して**選択**をクリックします。
  - ファイルをホットフォルダーにドラッグ＆ドロップするか、コピーして貼り付けます。

    同じディスクパーティションに存在するホットフォルダーにファイルをドラッグすると、同じパーティションにあるためファイルはコピーされず、*移動*されます。異なるパーティションまたはドライブにあるホットフォルダーにファイルをドラッグすると、ファイルは移動されず、*コピー*されます。
  - 書類の元のアプリケーションからファイルに印刷し、保存先にホットフォルダーを指定します。

複数のジョブをフォルダーとして送信する

一部のファイル形式（JPEG、PDF、TIFF）では、通常のフォルダー内にある複数のファイルをホットフォルダーに送信できます。

メモ：特定の入力形式（JPEG、PDF、TIFF）の**出力ファイルの種類**設定で**フォルダーの場合全ファイルをマージする**が選択されている場合、個々のファイルが 1 つの PDF ファイルにマージされます。同じ形式のファイルのみ（*JPEG のみ*、*PDF のみ*など）を 1 つのファイルに結合できます。

- 次のいずれかの方法でフォルダーをホットフォルダーに送信します。
  - フォルダーをホットフォルダーにドラッグアンドドロップします。
  - フォルダーをホットフォルダーにコピーし、貼り付けます。
  - フォルダーを右クリックし、**ホットフォルダーにダウンロード**を選択し、Hot Folder 名を選択します（Windows のみ）。

フォルダー内にある複数のファイルで構成されるジョブを送信する

一部のファイル形式は、複数のファイルで構成され、それらのファイルの中には、表示されないものや、ヘッダーや他の情報を含むものがあります。複数のファイルで構成されるジョブを送信する場合は、これらのすべてのファイルが必要です。

メモ：またジョブを確認する間隔を 10 秒以上に設定し、処理が始まる前にすべてのファイルが整うようにすることをお勧めします（新しいホットフォルダーを作成する（6 ページ）の**詳細設定**を参照）。

- Hot Folder を使用して、複数のファイルで構成されるジョブを処理する場合は、フォルダー内にあるすべてのジョブファイルを送信して、必要なすべてのファイルが処理されるようにします。

状況およびログウィンドウを表示する

Fiery Hot Folders コンソールには、現在のジョブの進行状況と、完了したジョブのログが表示されます。

- **状況**ウィンドウには、ホットフォルダーで処理されるファイルの進行状況が表示されます。
- **ログ**ウィンドウには、処理されたすべてのジョブのログが詳細に表示されます。

処理が完了すると、ファイルが下位フォルダーに転送され、ジョブが**ログ**ウィンドウに表示されます。

ホットフォルダーのジョブの進行状況を表示する

状況ウィンドウには、ホットフォルダーで処理されるファイルの進行状況が表示されます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**状況およびログ**をクリックします。

2 **状況**タブをクリックします。

3 **表示**メニューから次のいずれかをクリックします。

- 全ホットフォルダーの状況を表示するには、**全サーバー**をクリックします。
- 特定の Fiery サーバーの状況を表示するには、その Fiery サーバーを選択します。

ホットフォルダーのログを表示する

ログウィンドウには、処理されたすべてのジョブのログが詳細に表示されます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**状況/ログ**をクリックします。

2 **ログ**タブをクリックします。

3 次のいずれかの操作を行います。

- すべてのホットフォルダーのログを表示するには、**表示**メニューから**全ホットフォルダー**を選択します。
- 特定のホットフォルダーのログを表示するには、**表示**メニューからフォルダーを選択します。
- すべてのジョブを表示するには、**完了ログ**をクリックします。
- 処理または印刷に失敗したジョブのみを表示するには、**エラーログ**をクリックします。

ホットフォルダーのエラーの詳細を表示する

エラーの詳細とその関連情報は**ログ**ウィンドウ下部に表示されます。

ジョブが処理に失敗すると、警告インジケーターがジョブ名の横に表示されます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**状況/ログ**をクリックし、**ログ**タブをクリックします。

2 失敗したジョブを**ログ**ウィンドウで選択します。

「ログ」ウィンドウのログを消去する

ログウィンドウがいっぱいになったら、ログを消去できます。

1 **状況/ログ**アイコンをクリックし、**ログ**タブをクリックします。

2 **すべて消去**をクリックします。

3 確認画面で**はい**をクリックします。

ジョブのプロパティ

ジョブのプロパティは、ジョブに指定できる印刷オプションです。これらの設定は、ホットフォルダーに送信されるジョブに適用されます。

これらのプロパティには、両面、ホチキス留め、指定用紙への印刷、そしてカラープロファイルなどの詳細設定が含まれます。

- ジョブのプロパティで**デフォルト**を選択すると、Fiery サーバーのデフォルト設定が使用されます。
- プリセットを選択すると、プリセット設定が使用されます。
- 一部の印刷オプションに**書類の設定を保持**が設定されていると、ジョブにすでに設定されているプロパティが使用されます。これらの設定は上書きできます。

ジョブのプロパティから Fiery サーバーの高度な面付け機能にアクセスできます。この機能には以下が含まれます。

- Fiery Impose
- Booklet Maker（プリンターで利用可能なブックレットと高度な仕上げオプションなどが含まれます）

ジョブのプロパティのグループ

ジョブのプロパティに表示される印刷オプションはカテゴリー別にグループ分けされており、必要なオプションに簡単にアクセスできます。

以下のグループまたはタブがあります。

- **クイックアクセス**：印刷オプションへのショートカットです。このウィンドウをカスタマイズして、頻繁に使用するオプションや印刷オプションを含めることができます。
- **ジョブ情報**：ユーザー認証に必要なユーザー情報、セキュア印刷プロパティ、ジョブの処理に関する情報など、ジョブに関する情報です。
- **用紙**：用紙の属性や給紙に関する情報です。
- **レイアウト**：用紙/シート上でのファイルの配置や画像の作成方法に関するオプションです。ただし、トレイ調整などの仕上げオプションを細くする配置設定は除きます。お使いの Fiery サーバーで利用可能な場合、レイアウトから Fiery Impose ソフトウェアにアクセスできます。
- **カラー**：カラープリンターで利用可能な印刷オプションです。
- **画像**：画像変換の品質設定です。ただし、色を制御する設定は除きます。
- **仕上げ**：プリンターに装着されたフィニッシャーに関する印刷オプションです。また、仕上げオプションを補正する画像シフトも含まれます。
- **バリアブルデータ印刷**：バリアブルデータ印刷に関する印刷オプションです。
- **スタンプ**：ジョブの画像を追加、非表示、または削除する画像スタンプオプションです。これにはウォーターマークのプロパティも含まれます。Fiery サーバーによっては、スタンプタブがサポートされていない場合があります。
- **概要**：ジョブのプロパティの概要を表示します。

ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定する

Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。

2 **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**をクリックして**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。

メモ： デフォルトでは、一部の印刷オプションに**書類の設定を保持**が設定されている場合があります。この設定により、ジョブに設定されているプロパティを保持できます。これらの設定は上書きできます。これらの設定は、ホットフォルダーに送信されたジョブに適用されます。ジョブのプロパティで**デフォルト**を選択した場合、ジョブは Fiery サーバーのデフォルト設定で印刷されます。プリセットを選択した場合、ジョブはプリセット設定で印刷されます。詳細は、プリセットの使用（16 ページ）を参照してください。

3 各グループで印刷オプションを指定するか、**プリセット**リストからプリセットを選択します。

プリセットの使用

プリセットはジョブのプロパティから利用可能です。ジョブのプリセットは、保存済みプリセットの名前と、**プリセット保存**、**ローカルプリセット管理**、**デフォルト**、**サーバープリセット**などのオプションとともに**プリセット**リスト内にあります。

このリストからジョブのプリセットの 1 つを選択するか、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで選択した現在のオプションに基づいて新しいプリセットを作成できます。現在ジョブがプリセットを使用していない場合、プリセット設定は空白になり、**プリセット**設定にテキストは表示されません。すべてのプロパティは初期のデフォルト設定を表示します。ジョブのプリセットが選択された場合、保存済みプリセットを反映するためにすべての設定が更新されます。いずれかの印刷設定を変更すると、**プリセット**リストは空白に戻ります。

ジョブのプリセットには、次の 2 種類があります。

- ローカルプリセットは、ユーザーのローカルコンピューターに保存され、他のユーザーとは共有されません。ローカルプリセットは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。
- サーバープリセットは、Fiery サーバーに保存され、Fiery サーバーの他のユーザーと共有されます。

  ホットフォルダーにサーバープリセットが選択されている場合、**Fiery Hot Folders コンソール**に表示されるジョブのプロパティには、プリセット名とそれに対応する設定が表示されます。サーバープリセットの場合、**リフレッシュ**ボタンを押すと表示内容が Fiery サーバーの現在の設定に更新されます。また、Hot Folders を有効にし、サーバープリセットの設定表示内容を指定した間隔で自動的にアップデートすることもできます。詳細は、Hot Folders の環境設定を指定する（9 ページ）を参照してください。

Command WorkStation では、Fiery サーバーにシステム管理者としてログオンすると、サーバープリセットを作成、編集、名前変更、非公開、公開、および削除できます。Hot Folders では、**ジョブのプロパティ**ウィンドウでのみローカルプリセットを保存できます。

ローカルプリセットの作成

ローカルプリセットを作成するには、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで設定を選択し、選択した設定を**プリセット**リストに保存します。サーバープリセットとローカルプリセットは個別にリストされ、**プリセット**リストの区切り線で区別されます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。

2 **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**をクリックして**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。

3 必要に応じて各タブの印刷設定を調整します。

4 **プリセット**で、**プリセット保存**をクリックします。

5 **ローカルプリセット**を選択します。

6 わかりやすいプリセット名を入力して**保存**をクリックします。

利用可能なプリセットのリストにプリセットが追加されます。ローカルプリセットは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。

ローカルプリセットの編集

ローカルプリセットを編集できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。

2 **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**を選択して**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。

3 **プリセット**で、**ローカルプリセット管理**を選択します。

4 編集するプリセットを選択します。

5 印刷設定を変更します（**プリセット**フィールドは空白になります）。

6 **プリセット**リストから**プリセット保存**を選択します。

7 同じプリセット名を入力し、**保存**をクリックしてプリセットを保存します。

8 **OK** をクリックして同じ名前の現在のプリセットを置き換えます。

ローカルプリセットを削除/名前を変更する

プリセットを削除または名前を変更できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。

2 **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**をクリックして**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。

3 **プリセット**で、**ローカルプリセット管理**を選択します。

4 プリセットを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- プリセットを削除するには、**削除**をクリックします。
- プリセットの名前を変更するには、**名前変更**をクリックし、わかりやすいプリセット名を入力して**保存**をクリックします。

サーバープリセットを作成する

システム管理者は、**ジョブのプロパティ**ウィンドウ内の設定をサーバープリセットとして保存できます。このプリセットは Fiery サーバー上に保存され、サーバーのユーザーと共有されます。

1 **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックし、**ワークフロー** > **ジョブプリセット**をクリックします。

2 **新規**をクリックします。

3 わかりやすいプリセットの名前を入力します。

プリセット名にスペースは使用できません。

4 （オプション）プリセットの説明を入力します。

5 次のいずれかを選択して、サーバープリセットタイプを選択します。

- **完全**：このプリセットには、ジョブのプロパティ内のすべての設定が含まれます。このプリセットタイプを適用する場合は、現在のジョブ設定をすべて上書きします。
- **カスタム**：このプリセットには、選択したジョブのプロパティ設定のみが含まれます。このプリセットタイプを適用する場合は、定義した設定のみを変更します。その他のジョブ設定はすべて維持されます。

カスタムを選択した場合は、このプリセットから仮想プリンターを作成できません。

6 **定義**をクリックしてジョブのプロパティを指定し、**OK** をクリックします。

7 **OK** をクリックして、**ジョブプリセット設定**ウィンドウを閉じます。

サーバープリセットは、ジョブのプロパティから、またはデバイスセンターの**ワークフロー**で**ジョブプリセット**からいつでも利用できます。プリセットは、システム管理者が削除しない限り Fiery サーバー上に残ります。

サーバープリセットの作成後、**設定**ペイン（画面右側）はデフォルトから変更された設定およびロックされている設定を表示します。サーバープリセットは、Fiery サーバーに接続している他のユーザーと共有できるよう、自動的に公開されます。

カスタムプリセットは、デバイスセンターでのみ作成できます。ジョブセンターからは作成できません。

カスタムプリセットについて

カスタムプリセットの作成時にはジョブプロパティの一部しか選択できないため、ホットフォルダーで複数のプリセットを使用することができます。たとえば、仕上げ設定のみのプリセット#1 や印刷メディア設定のみのプリセット#2 を作成できます。カスタムプリセットが互いに競合する設定を含まない限り、一度に複数のプリセットを使用できます。

ホットフォルダーに複数のカスタムプリセットを適用し、最後に適用したプリセットではないプリセットのうちいずれかを編集すると、そのホットフォルダーには変更されたプロパティが反映されません。最後に適用されたプリセットが変更された場合、そのジョブは最後に適用されたプリセットの属性のみを保持します。その他のカスタムプリセットは無視されます。

ロック済みサーバープリセットについて

サーバープリセットは、デバイスセンターで**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択するとロックまたはロック解除できます。

これらの操作を行うには、システム管理者として Fiery サーバーにログオンする必要があります。

サーバープリセットの設定をロックすることにより以下の操作が可能になります。

- プリセットを使用して Command WorkStation にインポートされるすべてのファイルに設定が適用されます。
- 設定の選択後、プリンタードライバーのジョブのプロパティで設定の上書きができますが、上書きすると**プリセット**フィールドは空白になります。
- Fiery Hot Folders ジョブもまた同じロック済み設定を継承します（ホットフォルダーがサーバープリセットを使用すると仮定した場合）。
- 仮想プリンターでは設定がロック済みとして表示されます。仮想プリンターに接続しているクライアントプリンタードライバーは、設定を変更できません。

Fiery サーバーはデフォルトで常に**ジョブ定義設定を使用**に設定されているため、**出力プロファイル**はロックできません。

ロックはジョブの送信時にのみ適用されます。ジョブが Fiery サーバーに送信された後は、Command WorkStation の**ジョブのプロパティ**ウィンドウでロック済み設定を編集できます。

サーバープリセットのロックまたはロック解除

印刷設定のロックまたはロック解除を行うには、Fiery サーバーにシステム管理者としてログオンする必要があります。デバイスセンターで、**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択します。

1 編集するプリセットを選択し、ツールバーから**編集**をクリックします。

2 （オプション）変更内容の説明を入力します。

3 **定義**をクリックして印刷設定を変更します。

4 次のいずれかの操作を行います。

- **すべてロック**をクリックして、すべての印刷設定をロックします。
- 特定の印刷設定をロックするには、ロックアイコンをクリックします。
- **すべてアンロック**をクリックしてすべての印刷設定をアンロックします。
- 特定の印刷設定に対して、ロックアイコンをクリックして、アンロックアイコンに変えます。

5 **OK** をクリックします。

サーバープリセットの編集、削除、非公開

デバイスセンターで**ワークフロー**の**ジョブプリセット**を選択し、サーバープリセットの編集、削除、または非公開ができます。

これらの操作を行うには、システム管理者として Fiery サーバーにログオンする必要があります。

現在使用中のサーバープリセットを編集または削除する場合、その変更は以降のジョブにのみ適用されます。変更したプリセット設定は、そのサーバープリセットを使用するすべての Fiery Hot Folders または仮想プリンターに直ちに適用されます。

既存のサーバープリセットは、コンピューター上のファイルを上書きするのと同じ方法で上書きできます。サーバープリセットは、ジョブのプロパティから上書きできます。

すでに Fiery サーバーの待機リストまたは印刷済みリストの中にあるジョブには、このプリセットへの編集内容が自動的には反映されません。Fiery サーバーのキュー内のジョブを、新たに編集したプリセットで更新する場合は、ジョブのプロパティを使用してジョブにプリセットを再適用する必要があります。

サーバープリセットの編集

システム管理者はサーバープリセットを編集することができます。サーバープリセットは、デバイスセンター（**ワークフロー**の**ジョブプリセット**を選択）から、またはジョブのプロパティから編集できます。

1 デバイスセンターからプリセットを編集するには、**ワークフロー**の**ジョブプリセット**のツールバーで**編集**をクリックします。

a)（オプション）変更内容の説明を入力します。

b) 定義をクリックして印刷設定を変更します。

c) OK をクリックします。

2 ジョブのプロパティからプリセットを編集するには、**待機**または**印刷済み**リストでジョブを右クリックし、**プロパティ**を選択します。

a) ジョブに対して、**プリセット**リストからサーバープリセットを選択します。

b) ジョブのプロパティウィンドウで、プリセットに適用したい変更を行います。

c) プリセットリストで、**プリセットの保存**、続いて**サーバープリセット**を選択し、プリセットの名前を正確に入力します。

d) 保存をクリックし、次に **OK** をクリックして既存のプリセットを上書きします。

サーバープリセットの削除

システム管理者はサーバープリセットを削除できます。

1 リストから 1 つ以上のプリセット（非公開または公開）を選択します。

複数のプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべてのプリセットを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

2 ツールバーの**削除**をクリックします。

3 **はい**をクリックします。

削除されたプリセットと関連付けられていたホットフォルダーおよび仮想プリンターとの接続は切断されます。ただし、削除されたプリセットの設定は保持されます。

サーバープリセットを非公開にする

非公開のプリセットは、プリンタードライバーまたはジョブのプロパティウィンドウからは使用できません。サーバープリセットを非公開にした後、そのエントリを再度公開することができます。

1 公開済みアイコンを持つ 1 つ以上のプリセットを**プリセット**リストから選択します。

複数のプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべてのプリセットを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

2 ツールバーで**非公開**をクリックします。

サーバープリセットに非公開アイコンが表示されます。

3 **はい**をクリックします。

非公開にされたサーバープリセットに関連付けられていたホットフォルダーと仮想プリンターは切断されます。ただし、ホットフォルダーおよび仮想プリンターは非公開にされたプリセットのプリセット設定を保持します。

サーバープリセットのエクスポートとインポート

ある Fiery サーバーから選択したユーザー作成またはデフォルトのサーバープリセットをファイルにエクスポートし、同一モデルおよびバージョンの別の Fiery サーバーにインポートできます。これを行うには、デバイスセンターで**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択してください。

また、保管のために**バックアップ/復元**ツールを使用してサーバープリセットをエクスポートすることもできます。デバイスセンターで、**一般** > **ツール**を選択します。プリセットのバックアップファイルは、異なるモデルの Fiery サーバーには復元できません。

プリセットファイルをインポートした場合、その新しいプリセットを既存のプリセットとマージしたり、既存のプリセットを置き換えたりすることができます。

サーバープリセットをエクスポート/インポートするには Fiery サーバーにシステム管理者としてログオンする必要があります。

メモ：Command WorkStation のバージョンによって、エクスポートおよびインポート可能なサーバープリセットのファイルの種類が異なります。

Command WorkStation のバージョン番号	エクスポートするファイルの種類	インポートするファイルの種類
7.3 以降	.zip	.zip .fjp

Command WorkStation のバージョン番号	エクスポートするファイルの種類	インポートするファイルの種類
7.2 以前	.fjp	.fjp

サーバープリセットをエクスポートする

システム管理者は、選択したサーバープリセットをエクスポートして別の Fiery サーバーで使用できます。

1 エクスポートするプリセットをリストから 1 つ以上選択します。

複数のプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべてのプリセットを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

2 ツールバーから**エクスポート**をクリックします。

3 ファイルを保存する場所を指定します。

4 **保存**をクリックします。

サーバープリセットをインポートする

システム管理者は、Fiery サーバーからサーバープリセットをエクスポートした後、同一モデルおよびバージョンの異なる Fiery サーバーにインポートして使用することができます。

1 ツールバーで**インポート**をクリックします。

2 **既存とマージ**または**既存を置換**を選択します。

サーバープリセットをマージする場合、インポートしたファイルのプリセットは Fiery サーバーの既存のプリセットに追加されます。重複した同じ名前が存在する場合、インポートしたプリセットの名前の末尾には数字の接尾辞が付きます（たとえば、FirstTest-1）。

サーバープリセットの既存のプリセットを置き換える場合、現在のすべてのサーバープリセットは削除され、新しくインポートしたプリセットファイルに含まれるサーバープリセットに置き換えられます。

3 エクスポートしたファイルの保存先を指定します。

4 **開く**をクリックします。

面付けテンプレート

印刷およびとじの特殊なニーズに対応する面付けレイアウトを適用できます。レイアウトを面付けするには、ホットフォルダーに面付けテンプレートを適用し、そのホットフォルダーにジョブをドラッグします。

デフォルトの面付けテンプレートには、ライセンスやドングルがなくてもアクセスできます。カスタム面付けテンプレートにはライセンスが必要です（ドングルを必要とする Fiery サーバーに接続されている場合は、ドングルが必要です）。

- カスタムテンプレートを作成するには、既存のテンプレートの面付け設定を変更し、その新しいテンプレートをホットフォルダーに保存します。

  クロップボックスに合わせる仕上がりサイズ設定は、デフォルトの面付けテンプレートに使用されます。**ユーザー定義**および**トリムボックスに合わせる**仕上がりサイズ設定は、カスタム面付けテンプレートでサポートされています。**ユーザー定義**では、ソースドキュメントに定義されている PDF トリムボックスが仕上がりサイズとして使用されます。ユーザーはデフォルト値を上書きしてトリムサイズを設定できます。**トリムボックスに合わせる**は、ギャングアップ面付けでのみ使用できます。**トリムボックスに合わせる**ワークフローは、サイズの小さな印刷物（名刺、はがき、コンサートチケットなど）のレイアウトをサイズの大きなシート（11 x 17 など）に動的に作成する自動ワークフローです。

  メモ：ユーザー定義および**トリムボックスに合わせる**カスタムテンプレートでは、PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

バリアブルデータ印刷をサポートする Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている場合は、バリアブルデータ印刷ジョブを設定することもできます。

面付けテンプレートを編集する

Fiery Impose では、面付けテンプレートを編集できます。Fiery サーバーが Fiery Impose をサポートしていること、およびユーザーが適切なライセンスを持っていることが必要になります。古いタイプの Fiery サーバーではドングルが必要となることがあります。

1. **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。
2. **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**をクリックして**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。
3. **レイアウト** > **Impose** を選択します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 一覧から面付けテンプレートを選択し、**OK** をクリックします。

     クロップボックスに合わせる仕上がりサイズ設定は、デフォルトの面付けテンプレートに使用されます。
   - **Impose テンプレート編集**をクリックして Fiery Impose を起動し、カスタムテンプレートを作成します。

     ユーザー定義仕上がりサイズ設定は、カスタム面付けテンプレートでサポートされており、Acrobat PDF のトリムボックス設定をサポートしています。
   - **トリムボックスに合わせる**仕上がりサイズ設定は、ギャングアップカスタム面付けテンプレートでサポートされており、Acrobat PDF のトリムボックス設定をサポートしています。

   メモ： ユーザー定義および**トリムボックスに合わせる**カスタムテンプレートでは、PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

定義済み面付けテンプレート

ホットフォルダーには、1-up フルブリード、2-up 無線とじ、2-up 中とじ、3-up 巻き三つ折り、4-up 内巻き四つ折り、4-up 四つ折り、および 4-up Z 折りの面付けテンプレートが用意されています。

1-up フルブリード

1-Up フルブリードレイアウトでは、1 シートに 1 ページを印刷できます。プリンターのマークは、用紙を裁断する位置を示し、カラーコンテンツを用紙の端まで広げます。このレイアウトにページ数の制限はありません。このレイアウトでは次の設定が適用されます。

- ブリード
- プリンターのマーク（トリムマークとジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

2-up 無線とじ

2-up 無線とじレイアウトでは、無線とじ製本の面付け済みシート作成できます。各シートは一度折られ、積み重ねられます。

2-up 無線とじレイアウトは、ページ数が 4 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブで使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。ページは 4 枚のグループで並べられるので、折ると各シートにつき 4 枚の連続ページがあることになります。クリープ調整オプションはこのテンプレートには影響がありません。

2-up 無線とじレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベル）
- 用紙サイズにあわせる
- 無線とじ

2-up 中とじ

2-up 中とじレイアウトでは、中とじ製本のシートを作成できます。すべてのシートはまとめて折られ、重なっています。

2-up 中とじレイアウトは、ページ数が 4 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。各ページは、シートが折られ、とじられた状態でページが連続になるような順になっています。

2-up 中とじレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベル）

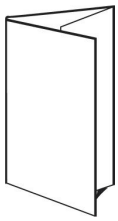
- 用紙サイズにあわせる
- 中とじ

3-up 巻き三つ折り

3-up 巻き三つ折りレイアウトは、6 ページあるいはページ数が 6 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブにも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。

3-up 巻き三つ折りレイアウトは、1 枚のシートが 3 つのセクションに折られています。3 つのセクションは同じ幅ですが、各セクション間のスペースは異なり、左端のパネルは他の 2 つのパネルの上に折ることができます。

3-up 巻き三つ折りは通常以下のイラストのように折ります。



3-up 巻き三つ折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

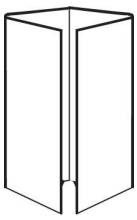
- 両面
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

4-up 内巻き四つ折り

4-up 内巻き四つ折りレイアウトは、4 枚のパネルからなるパンフレット用に頻繁に使用されます。仕上がったパンフレットは、一度開くと畳んだ時のサイズの 2 倍に、もう一度開くと 4 倍になります。

4-up 内巻き四つ折りレイアウトは、8 ページまたはページ数が 8 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。

4-up 内巻き四つ折りは通常以下のイラストのように折ります。



4-up 内巻き四つ折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

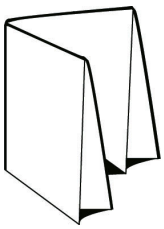
4-up 四つ折り

4-up 四つ折りレイアウトでは、印刷シートの両面に 4 ページの上端をつき合わせたレイアウトでブックレットを作成できます。

4-up 四つ折りレイアウトは、ページ数が 8 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。ページ順は、シートが 90 度で 2 回折られ、トリミングされ、面付け済みシートにとじられ、ページが連続になるようになっています。上側 2 ページを回転して、面付け済みシートは水平、垂直に折り、トリミングできます。仕上がったブックレットのすべてのページは適切な順序と回転になっています。

このレイアウトは 2 つの折りが必要ですが、テンプレートは背表紙の折りに対してのみ折り目を適用します。

4-up 四つ折りは通常以下のイラストのように折ります。



4-up 四つ折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- とじしろ
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベル）
- 用紙サイズにあわせる
- 中とじ

4-up Z 折り

4-up Z 折りレイアウトは、折り目の付いた背表紙にストレスを加えずに、多くのパネルを重ねることができます。最も頻繁に見られる例は道路の地図です。

このレイアウトは、8 ページのジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。4-up Z 折りは通常以下のイラストのように折ります。



4-up Z 折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

ホットフォルダーの入力形式

入力形式ウィンドウでは、ファイルフィルターとアプリケーション固有のオプションにアクセスできます。

ファイルフィルターは、Fiery サーバーにファイルを送信する前に、ほとんどのファイルの種類を PostScript または PDF に変換します。アプリケーション固有のオプションを使用すると、オリジナルアプリケーションを開いたりインストールしたりしなくても、印刷設定オプション（カスタムまたは自動変倍、方向、解像度など）を変更できます。

フィルターを割り当てると、Hot Folders アプリケーションは、ファイルの種類を自動的に検出し、ファイルを Fiery サーバーに送信する前に、ファイルを PostScript または PDF に変換します。

出力ファイルの種類

Hot Folders フィルターのほとんどは、デフォルトで PostScript に変換されます。**出力ファイルの種類**オプションを使用すると、必要に応じて PostScript をさらに PDF に変換できます。

Microsoft Office ファイルを変換する場合、ホットフォルダーアプリケーションは Adobe Acrobat で定義されたデフォルトの場所から Distiller プロファイルを取得できます。ただし、プロファイルを別の場所に保存した場合には、デフォルトの場所を手動でコピーする必要があります。

PDF、TIFF、JPEG ファイルの場合は、**フォルダーの場合全ファイルをマージする**オプションを使用できます。

出力ファイルの種類オプションは、VDP を除くすべてのフィルターに利用できます。

入力形式を指定する

ホットフォルダー設定ウィンドウから入力形式を指定できます。

1. **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。
2. **入力形式**の隣にある**編集**をクリックして**入力形式**ウィンドウを開きます。
3. ウィンドウの左側で 1 つまたは複数の入力形式（フィルター）を選択します。
4. ウィンドウの右側で入力形式の詳細を設定します。
5. 出力ファイルの種類を設定するには、**出力ファイルの種類**ペインでファイルの種類をクリックします。
6. **OK** をクリックして、**ホットフォルダー設定**ウィンドウに戻ります。
7. **OK** をクリックして設定を保存します。

Hot Folders フィルター

Hot Folders フィルターは、ファイルを Fiery サーバーに送信する前に、ファイルを PostScript または PDF に変換します。

フィルターは、次のカテゴリーにグループ化されています。

- 一般フィルター（ほとんどのグラフィックアートおよびプロダクション印刷アプリケーション用）
- Microsoft フィルター
- JDF フィルター
- パススルーフィルター

ほとんどのフィルターは非独占フィルターです。フィルターが同一のカテゴリーに属している限り、任意の数のフィルターを同一のホットフォルダーに適用できます。ただし、*異なる*カテゴリーのフィルタを、同一のホットフォルダーに適用することはできません。

場合によっては、すべてのフィルターを利用できない場合もあります。利用可能なフィルターは、Hot Folder が接続されている Fiery サーバーにインストールされているオプションによって異なります。

一般フィルター

一般フィルターには、ほとんどのグラフィックアートおよびプロダクション印刷アプリケーション用のフィルターなどが含まれています。

EPS フィルター

EPS フィルターは EPS ファイルを変換し、カスタムまたは自動変倍、方向、およびページ上の画像の位置のオプションを提供します。

EPS フィルターの入力ファイルの種類は.eps です。

オプション	説明
オリジナルサイズ	オリジナル画像のサイズを保持します。
カスタムサイズ	画像を、ユーザーが入力する幅と高さの値に拡大縮小します。
縦横比を固定	オリジナルの縦横比を維持します。したがって、画像が伸びたり歪んだりすることはありません。これを選択すると、1 つの値（高さまたは幅）を入力すると、もう 1 つの値が自動的に設定され、オリジナル画像の比率が保持されます。
自動変倍：ページに合わせる	指定したページサイズに合わせて画像を拡大縮小します。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。

オプション	説明
自動変倍：用紙に合わせて縮小	指定したページサイズに合わせて画像を縮小します。 用紙に合わせて縮小は縮小のみを行います。画像がすでにページサイズより小さい場合は、縮小されません。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像はサイズ設定に比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
印刷可能範囲のみにあわせる	自動変倍：ページに合わせる、自動変倍：用紙に合わせて縮小を使用する場合に、クロップが発生しないようにします。 フルブリードの場合にはこのオプションを選択しないでください。
サイズ	自動変倍：ページに合わせる、自動変倍：用紙に合わせて縮小のページサイズを指定します。
方向	縦方向または横方向を指定します。 画像を選択した向きにぴったりと合うよう自動回転させるには、画像自動回転を選択します。
画像位置	最上部左、最上部右、最下部左、最下部右、または中央（デフォルト）に合わせてページの画像を配置します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類（27 ページ）を参照してください。

JPEG フィルター

JPEG フィルターは、ほとんどの標準的な JPEG ファイルを PostScript または PDF ファイルに変換し、カスタムおよび自動変倍、解像度、方向、ページ上の画像の位置のオプションを提供します。

JPEG フィルターには、.jpeg および.jpg ファイルを入力します。フォルダーに複数の JPEG ファイルを送信できます。このファイルは結合され、1 つの PDF ファイルとして出力されます。この機能をアクティベートするには、**出力ファイルの種類**の**フォルダーの場合全ファイルをマージする**オプションを選択します。

オプション	説明
オリジナルサイズ	オリジナル画像のサイズを保持します。
カスタムサイズ	画像を、ユーザーが入力する幅と高さの値に拡大縮小します。
縦横比を固定	オリジナルの縦横比を維持します。したがって、画像が伸びたり歪んだりすることはありません。これを選択すると、1 つの値（高さまたは幅）を入力すると、もう 1 つの値が自動的に設定され、オリジナル画像の比率が保持されます。

オプション	説明
解像度	指定する解像度で、印刷する画像を拡大縮小します。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。
自動変倍：ページに合わせる	入力形式で指定したページサイズに合わせて画像のサイズを変更します。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
自動変倍：用紙に合わせて縮小	選択したページサイズに合わせて画像を縮小します。 用紙に合わせて縮小は縮小のみを行います。画像がすでにページサイズより小さい場合は、縮小されません。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
印刷可能範囲のみにあわせる	自動変倍：ページに合わせる、自動変倍：用紙に合わせて縮小を使用する場合に、クロップが発生しないようにします。 印刷可能領域は印刷デバイスによって決まります。
サイズ	自動変倍：ページに合わせる、自動変倍：用紙に合わせて縮小のページサイズを指定します。
方向	縦方向または横方向を指定します。 画像を選択した向きにぴったりと合うよう自動回転させるには、画像自動回転を選択します。
画像位置	最上部左、最上部右、最下部左、最下部右、または中央（デフォルト）に合わせてページの画像を配置します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類（27 ページ）を参照してください。

FreeForm Plus フィルター

FreeForm Plus フィルターは、FS400 以降のソフトウェアを使用する Fiery サーバー用に FreeForm Create アプリケーション（ファイル拡張子.ffp）から作成されたファイルを許可します。

PDF フィルター

PDF/X（PDF Exchange）プリフライトは、プリプレスのデータ交換用に設計された Adobe PDF のサブセットです。PDF/X ファイルの読み込みや作成を行うアプリケーションの動作を定義します。

PDF フィルターは、PDF ファイルが PDF/X-1a または PDF/X3 標準のいずれかに準拠していることを確認します。フィルターは PDF ファイルがこれらの標準に準拠しているかどうかを確認します。PDF ファイルが PDF/X 準拠でない場合、ジョブは処理に失敗し、エラーレポートが表示されます。

PDF フィルターはプリフライト機能にのみ使用されます。

PDF フィルターの入力ファイル形式は PDF です。

メモ：フォルダーに複数の PDF ファイルを送信できます。このファイルは結合され、1 つの PDF ファイルとして出力されます。この機能をアクティベートするには、**出力ファイルの種類**の**フォルダーの場合全ファイルをマージする**を選択します。

オプション	説明
PDF パススルー	このオプションを使用すると、PDF ファイルをサーバーに送信することができ、サードパーティ製アプリケーションで生成された非標準 PDF ファイルに対しても使用することができます。
PDF（VT）	PDF/VT（Portable Document Format/Variable Transactional）は、Adobe が開発したバリアブルデータのファイル形式です。PDF（VT）が選択されている場合、PDF の出力ファイル形式を除く他のすべての PDF オプションは無効になります。 PDF/VT チェックボックスは、PDF/VT に対応する Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている場合にのみ表示されます。 Fiery サーバーが PDF/VT に対応している場合、PDF/VT を入力形式として指定するには、**入力形式**ダイアログボックスの**一般**リストで **PDF** を選択し、**PDF** ペインで **PDF/VT** を選択します。
PDF/X プリフライト	プリフライトする PDF/X 標準を指定します。 PDF/X1-a 標準：ブラインド交換に対処し、ファイルには CMYK（とスポットカラーのいずれかまたは両方）のみが含まれ、RGB またはデバイスに依存する（色管理）データが存在しないことを検証します。 PDF/X3：PDF/X-1a 標準のすべての要件を満たしていますが、デバイスに依存しない（色管理）データを含みます。 プリフライトおよび PDF/X への準拠についての詳細は、Fiery サーバー付属の取扱説明書を参照してください。
エラーレポート	エラーレポートを指定の場所に保存します。 参照をクリックして、エラーレポートを保存する場所を選択します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類（27 ページ）を参照してください。

PS フィルター

PS（PostScript）フィルターは出力ファイル形式を指定するためにのみ使用されます。このファイルの種類はすでに PostScript なので、このフィルターを使用する際、変換は行われません。

PS フィルターの入力ファイルの種類は.ps です。

オプション	説明
出力ファイルの種類	詳細は、出力ファイルの種類（27 ページ）を参照してください。

TIFF フィルター

TIFF フィルターは、TIFF（Tagged Image File Format）ファイルを PostScript または PDF ファイルに変換し、カスタムまたは自動変倍、解像度、用紙の向きおよびページ上の画像の位置のオプションを提供します。

TIFF フィルターの入力ファイルの種類は.tiff と.tif です。

フォルダに複数の TIFF ファイルを送信できます。このファイルは結合され、1 つの PDF ファイルとして出力されます。この機能をアクティベートするには、**出力ファイルの種類**の**フォルダーの場合全ファイルをマージする**を選択します。

オプション	説明
オリジナルサイズ	オリジナル画像のサイズを保持します。
カスタムサイズ	画像を、ユーザーが入力する幅と高さの値に拡大縮小します。
縦横比を固定	オリジナルの縦横比を維持します。したがって、画像が伸びたり歪んだりすることはありません。これを選択すると、1 つの値（高さまたは幅）を入力すると、もう 1 つの値が自動的に設定され、オリジナル画像の比率が保持されます。
解像度	指定する解像度で、印刷する画像を拡大縮小します。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。
自動変倍：ページに合わせる	（拡大縮小により）画像のサイズを変更し、入力形式で指定するページサイズに自動的に合わせます。 画像は、入力形式：サイズメニューから選択するページサイズに **比例して拡大縮小**します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。

オプション	説明
自動変倍：用紙に合わせて縮小	（縮小により）画像のサイズを小さくし、入力形式で指定するページサイズに自動的に合わせます。 用紙に合わせて縮小は縮小のみを行います。画像がすでにページサイズより小さい場合は、縮小されません。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
印刷可能範囲のみにあわせる	自動変倍：ページに合わせる、自動変倍：用紙に合わせて縮小を使用する場合に、クロップが発生しないようにします。 印刷可能領域は印刷デバイスによって決まります。
サイズ	自動変倍：ページに合わせる、自動変倍：用紙に合わせて縮小のページサイズを指定します。
方向	縦方向または横方向を指定します。 画像を選択した向きにぴったりと合うよう自動回転させるには、画像自動回転を選択します。
画像位置	最上部左、最上部右、最下部左、最下部右、または中央（デフォルト）に合わせてページの画像を配置します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類（27 ページ）を参照してください。

VDP フィルタ

VDP フィルターは、VDP（バリアブルデータ印刷）ジョブを処理します。処理された VDP ジョブは、Fiery サーバーに直接送信されます。

VDP フィルターの入力ファイル形式は.ppml、.zip、.vps、.ps です。

関連する VIPP ファイルが XGFC フォルダに存在する必要があります。

Microsoft フィルター

Microsoft Office フィルターは排他フィルターで、他の入力フォルダーと同時に選択できません。Microsoft フィルターは、Microsoft ネイティブファイル形式（Excel、PowerPoint、Word、Publisher など Microsoft Office アプリケーションで作成したファイル）を PostScript または PDF に変換します。

これらのフィルターを使用するには、使用している Hot Folders アプリケーションと同じシステムに Microsoft Office をインストールしている必要があります。システムには PostScript プリンターまたは Acrobat Distiller もインストールされている必要があります。

Hot Folders で Microsoft Office ファイルを処理するには、ログインする必要があります。Hot Folders 4.0 をインストールする以前に、Microsoft Office 形式やその他の形式で Hot Folders が設定されている場合、Hot Folders は Microsoft Office 形式のみ受け付けるフォルダーのコピーを作成します。

排他的 Microsoft Office フォーマットフォルダーには、名前の末尾に「_Office」が付いています。

Microsoft フィルターは Mac OS には対応していません。

次のバージョンとファイル形式がサポートされています。

アプリケーション	バージョン	ファイル拡張子
Office	2003、2007、2010、2013、2016、Office 365	各種
Word	2003、2007、2010、2013、2016、Office 365	.doc、.docx
Excel	2003、2007、2010、2013、2016、Office 365	.xls、.xlsx
PowerPoint	2003、2007、2010、2013、2016、Office 365	.ppt、.pps、.pptx、.ppsx
Publisher	2003、2007、2010、2013、2016、Office 365	.pub

メモ：Office 2007 のファイルを印刷するには、システムに Office 2007 がインストールされていなければなりません。Office 2007 は Office 2003 および Office 2000 と互換性がありますが、Microsoft Office の以前のバージョンは Office 2007 ファイルを処理できません。

メモ：PDF に出力するには、Adobe PDF 印刷設定で**システムのフォントのみ使用し、文書のフォントを使用しない**オプションをオフにします。

Microsoft フィルターには次の設定とオプションがあります。

設定とオプション	説明
プリンター名	Windows システムにインストールされている PostScript プリンタードライバーを選択します。 このフィルターでは、このドライバーを使用して PostScript ファイルを作成し、ホットフォルダーから Fiery サーバーに送信します。
PowerPoint の設定：	
印刷	スライド、ビラ、注釈ページ、または概要表示の出力形式を選択します。
カラー/グレースケール	カラー、グレースケール、または白黒の出力を選択します。

設定とオプション	説明
詳細設定：	
用紙サイズにあわせる	アプリケーションで指定した用紙サイズに自動的に合うよう、画像を拡大縮小します。
フレームスライド	各スライドの周りにフレームを印刷します。
コメントおよびインクマークアップを印刷	コメント、注釈、インク図面またはマークアップを持つ書類を印刷します。
隠しスライドを印刷	非表示のスライドを印刷します。
高品質	透明な画像、グラフィック、およびファイルを高品質で印刷します（高解像度で印刷すると、色が若干変わることがあり、陰影効果がソフトになります）。 高品質を選択すると、PostScript ファイルのサイズが大幅に増加（最大 250%）することがあり、ホットフォルダーや Fiery サーバーでの処理が低速になる可能性があります。 高品質設定は、PowerPoint 2007 がコンピューターにインストールされている場合にのみ利用できます。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類（27 ページ）を参照してください。

JDF フィルター

Hot Folders は、JDF（ジョブ定義形式）ワークフローに対応しています。JDF テクノロジーはジョブチケットのための XML ベースのオープン業界規格です。

送信アプリケーションからの JDF ジョブは、JDF 送信を有効にしている Fiery サーバーに Hot Folders を介して送信できます。JDF フィルターは、Windows 版の Hot Folders にのみ対応しており、Mac OS 版 Hot Folders には対応していません。

JDF ジョブをホットフォルダーに送信すると、**入力形式**ダイアログボックスに JDF オプションが表示され、それ以外のオプションはすべて無効になります。JDF フィルターを使用するには、Fiery サーバーが JDF ジョブに対応しており、設定で Fiery JDF 機能がオンになっている必要があります。

JDF を入力形式として設定すると、Hot Folders のジョブのプロパティとジョブアクションの選択が無効になります。ジョブは、ジョブの JDF チケットに定義された設定と、Fiery サーバーで構成されている JDF 設定を使用します。JDF ジョブのジョブアクションは、設定の JDF セクションで仮想プリンターを選択することで指定できます。

JDF ジョブをホットフォルダーに送信すると、そのジョブは Fiery サーバーの標準 JDF ワークフローで処理され、Command WorkStation で管理されます。

JDF を入力形式として指定するには、**入力形式**ダイアログボックスで **JDF** を入力します。

パススルーフィルター

パススルーフィルターを使用すると、ジョブのプロパティを適用したり、ファイル形式を変換したりすることなく、Hot Folder にファイルをドロップすることができます。

パススルーフィルターを使用した結果は、**ファイル** > **インポート**アクションを Command WorkStation で使用してファイルをインポートした場合と同じです。

メモ：パススルーフィルターを使用してサポートされていないファイル形式を処理すると、ジョブがエラーとなって印刷済みキューに移動します。

プリフライト

プリフライトは、ホットフォルダーに送信されたジョブを対象に、最も一般的に発生するエラーをチェックして、コストがかかる印刷エラーを低減します。

プリフライトチェックを実行するには、次のいずれかが必要です。

- Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition（FS350 Pro 以前）
- Fiery Graphic Arts Pro Package（FS400 Pro）
- Fiery Automation Package（FS400 以降）

ホットフォルダーが直接接続をジョブアクションとして指定している場合、プリフライトは利用できません。

プリフライトは、プリフライトが有効になっているホットフォルダーの設定に基づいて、指定されたアクションを実行します。プリフライトは次のエラーをチェックします。

- **フォント** - 不明のフォント、Courier フォントの置換有無をチェックします。
- **スポットカラー** - 不明のスポットカラーをチェックします（不明のスポットカラーは、Command WorkStation のスポットカラーで追加できます）。
- **画像解像度** - 指定値以下の画像の解像度をチェックします。
- **バリアブルデータ印刷リソース** - 不明のバリアブルデータ印刷のリソースをチェックします。

  プリフライトを行うレコード数を指定することができます。この機能によって、必要以上にプリフライト処理に時間がかかるのを防ぐことができます。
- **ヘアライン** - 指定値以下のヘアライン幅をチェックします。
- **オーバープリント** - オーバープリントをチェックします。

プリフライトでは次のファイル形式がサポートされています。

Fiery サーバー	サポートされているファイル形式
Windows ベース	PostScript、PDF、EPS、PPML、Creo VPS および PDF/VT
埋め込み	PostScript、PDF、EPS、Creo VPS

TIFF および PCL ファイル形式はプリフライト機能でサポートされていません。

プリフライト設定を指定する

プリフライト設定を指定すると、ホットフォルダーに送信されるすべてのジョブからエラーをチェックできます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをダブルクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。

2 次のいずれかを行います。

- **プリフライト**を選択し、**編集**をクリックして**プリフライト設定**ウィンドウを開きます。
- または、**プリセット**メニューからプリセットを選択して、プリセットに保存されている設定の組み合わせを自動的に選択できます。プリセットに必要なすべての設定が含まれている場合は、手順 6（37 ページ）に進みます。

3 チェックするエラーを指定し、そのエラーの通知レベル（**重大**または**警告**）を設定します。

4 重大なエラーを最初に検出した時点でエラーチェックを停止する場合は、**1 つ目のエラーでプリフライトを中止**を選択します。

5 設定を再度使用する場合は、**プリセット**リストから**保存**または**別名保存**を選択します。プリセットを削除するには、プリセットを選択し、**プリセット**リストから**削除**を選択します。

6 **OK** をクリックして、**ホットフォルダー設定**ウィンドウに戻ります。

7 **重大エラー発生の場合**メニューから、重大なエラーを少なくとも 1 つ検出したときに Hot Folders で実行するアクションを選択します。次のいずれかをクリックします。

- **待機**：ジョブを待機キューに送信します。ジョブは Fiery サーバーのハードディスクにスプールされ、以降の印刷のためにキュー内に保持されます。
- **処理後待機**：ジョブを処理した後、処理済みジョブを以降の印刷のために待機キューに配置します。
- **プルーフ印刷**：ジョブを処理して 1 部印刷します。このアクションは、ジョブで呼び出された部数を印刷する前に、ジョブ出力を確認する際に役立ちます。
- **ジョブアクションを使用**：ホットフォルダー設定で指定されたジョブアクションを実行します。

8 **OK** をクリックして設定を保存します。

Fiery Preflight Pro

Fiery Preflight Pro 機能を使用して、ジョブが選択したプリセットで定義される一連の基準に準拠しているかどうかを確認します。

Preflight Pro は、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーのみで使用できます。Preflight Pro は Fiery サーバーで Fiery Graphic Arts Pro Package がアクティベートされている場合のみ有効になります。

Fiery Preflight Pro で次の種類のジョブを確認できます。

- PDF
- PDF/VT
- FreeForm Plus（FS600 以降）

Preflight Pro が行う確認は、選択したプリセットで定義される設定に基づいています。プリセットはスプール済みジョブと処理済みジョブに適用できます。ジョブがプリセットで定義されている基準から逸脱した場合、Preflight Pro はジョブのエラーと警告をキャプチャするレポートを生成します。

メモ：Preflight Pro は PDF、PDF/VT および FreeForm Plus のジョブのみに適用されます。PDF 以外のすべてのファイルタイプのプリフライトは、Preflight（36 ページ）を使用して実行されます。

Preflight Pro にアクセスするには、Command WorkStation にシステム管理者またはオペレーターとしてログインする必要があります。Command WorkStation ジョブセンターでスプール済みまたは処理済みのジョブを右クリックし、**Preflight Pro** を選択します。また、Fiery Hot Folders または仮想プリンターから送信されたジョブをプリフライトできます。

ホットフォルダー用 Preflight Pro 設定を構成する

Preflight Pro 設定を構成して、ホットフォルダーに送信されるすべてのジョブのエラーを確認できます。

1. **Fiery Hot Folders コンソール**で、ホットフォルダーをクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを開きます。
2. **プリフライト**を選択し、次のいずれかを行います。
   - PDF または PDF/VT ジョブの場合は、**PDF 出力のプリセット**からプリセットを選択し、ステップ 6 に進みます。
   - PDF 以外のジョブのプリセット：
     - **編集**をクリックして**プリフライト設定**ウィンドウを開き、必要なプリフライト設定を構成します。
     - **プリフライト設定**ウィンドウで**プリセット**メニューからプリセットを選択して、プリセットに保存された設定の組み合わせを自動的に選択します。プリセットに必要なすべての設定が含まれている場合は、手順 6 に進みます。
3. チェックするエラーを指定し、そのエラーの通知レベル（**重大**または**警告**）を設定します。
4. 最初の重大なエラーを検出した時点で Preflight Pro のエラーチェックを停止する場合は、**1 つ目の重大エラーでプリフライトを中止**を選択します。
5. 設定を再度使用する場合は、**プリセット**リストから**保存**または**別名保存**を選択します。プリセットを削除するには、プリセットを選択し、**プリセット**リストから**削除**を選択します。
6. **OK** をクリックして、**ホットフォルダー設定**ウィンドウに戻ります。
7. **重大エラー発生の場合**メニューから、重大なエラーを少なくとも 1 つ検出したときに Hot Folders で実行するアクションを選択します。次のいずれかをクリックします。
   - **待機**：ジョブを待機キューに送信します。ジョブは Fiery サーバーのハードディスクにスプールされ、以降の印刷のためにキュー内に保持されます。
   - **処理後待機**：ジョブを処理した後、処理済みのジョブを以降の印刷のために待機キューに配置します。
   - **プルーフ印刷** - ジョブを処理して 1 部印刷します。このアクションは、ジョブで呼び出された部数を印刷する前に、ジョブ出力を確認する際に役立ちます。
   - **ジョブアクションを使用**：ホットフォルダー設定で指定されたジョブアクションを実行します。
8. **OK** をクリックして設定を保存します。

JobExpert を Fiery Hot Folders に追加する

Fiery Hot Folders で新しいホットフォルダーを JobExpert に適用できます。

Fiery JobExpert をサポートする Fiery サーバーに接続する必要があります。

1 **Fiery ホットフォルダーコンソール**ウィンドウを開きます。

2 **新規**をクリックします。

3 次のいずれかのルールを選択します。

- **全カテゴリー**
- **カラー管理**
- **画像品質**
- **バリアブルデータ印刷**

4 **OK** をクリックします。

ジョブを Fiery Hot Folders 経由でインポートする場合、JobExpert は推奨設定を適用します。

バックアップ/復帰

バックアップ/復帰機能を使用すると、システムのすべてのホットフォルダーとその設定のバックアップを作成できます。

バックアップ/復帰機能を使用すると、次のことが行えます。

- 個別のバックアップを作成できます。ホットフォルダーとその設定をバックアップから復帰できます。
- バックアップアーカイブを作成できます。特定の日のホットフォルダーとその設定に復帰するために使用できます。
- Hot Folders とその設定を別のシステムまたはシステムグループにコピーできます。(この方法を使用すると、共同作業する複数のユーザーや、ネットワーク上でホットフォルダーを共有する複数のユーザーに対して、Hot Folders を同じ設定ですばやく構成できます)。

バックアッププロセスでは、圧縮（.fbf）ファイルによるすべてのホットフォルダーのコピーが作成されます。これには、次の設定で保存されたシステム上のすべての Hot Folders が含まれます。

- ホットフォルダーの設定（フォルダー名と説明）
- ネットワーク設定（サーバー名およびジョブアクション）
- ジョブのプロパティの設定（ホットフォルダーに設定された印刷設定または面付け設定）
- 入力形式の設定（ホットフォルダーに設定されたフィルターとアプリケーション固有の形式）

バックアップにはホットフォルダーの状況（アクティベート済み/アクティベート解除）が保持されます。

ホットフォルダーをバックアップした後、自分のシステムや別のシステムにホットフォルダーとその設定を復帰できます。通常は、Hot Folder をオリジナルと*同じ*場所に復帰します。そうしないと、同じ名前を持つ Hot Folder が複製されることになり、そのホットフォルダーも **Fiery Hot Folders コンソール**に表示されます。

⚠ 注 意 バックアップ/復帰機能を使用してバックアップが作成してある場合には、そのバックアップを使用して、バックアップに含まれている削除済みホットフォルダーを復帰できますが、送信されたジョブのオリジナルファイルは復帰されません。

オリジナルファイルのバックアップ

ホットフォルダーの下位フォルダー内にあるオリジナルファイルはバックアップに含まれません。デフォルトで、ホットフォルダーの下位フォルダーは、オリジナルファイルのアーカイブ先です。

ホットフォルダーが削除された場合に備えて、オリジナルファイルをバックアップするには、バックアップ先としてホットフォルダー以外の場所を指定します。

⚠ 注 意 別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。

環境設定で**オリジナルファイル保存場所**オプションを設定すると、ホットフォルダーによって自動的に生成されるフォルダーではなく、別の場所をオリジナルファイルのアーカイブ先として指定できます。別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。詳細は、Hot Folders の環境設定を指定する（9 ページ）を参照してください。

ホットフォルダーのバックアップ

Fiery Hot Folders コンソールからバックアップ機能を利用します。プロセス全体を指示する別ウィンドウが開きます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**ファイル** > **バックアップ/復帰**を選択します。

2 **バックアップ**をクリックし、**次へ**をクリックします。

3 次のバックアップ設定を指定します。

- **ファイル名** - デフォルトのファイル名をそのまま使用するか、新しいバックアップファイルの名前を入力します。
- **場所** - 圧縮ファイルを保存する場所を設定します。

  複製を作成するのではなく、既存のバックアップファイルを置き換える場合は、既存のファイルと同じ場所を設定し、同じファイル名を指定する必要があります。バックアップを開始する前に、既存のファイルを置き換えるかどうかの確認が表示されます。
- **ファイル名に日時を追加** - ファイル名に現在の日付を追加します。このオプションを使用すると、バックアップファイルの名前にその作成日を追加して一意のファイル名を自動的に生成できます。

4 **次へ**をクリックします。

バックアップの概要が表示され、バックアップファイル用に指定した場所へのハイパーテキストリンクが表示されます。**バックアップの概要**には、ホットフォルダーごとに、バックアップが成功したかどうかが表示されます（成功した場合は緑のチェックマーク、失敗した場合は赤の「X」が表示されます）。

オリジナルファイルのバックアップ

バックアップにオリジナルファイルは含まれません。そのため、オリジナルファイルをバックアップするには、オリジナルファイルをホットフォルダー以外の場所に保存する必要があります。ただし、別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**編集** > **環境設定**を選択します。

2 **共通**をクリックして、オリジナルファイルを保存する場所に移動します。

ホットフォルダーを復元する

復元機能を使用して、ホットフォルダーとその設定をお使いのシステムや別のシステムに復元できます。

1 **Fiery Hot Folders コンソール**で、**ファイル** > **バックアップ/復元**を選択します。

2 **復元**をクリックし、**次へ**をクリックします。

3 次のいずれかをクリックします。

- **特定バックアップから復元**をクリックし、バックアップファイルを参照して特定します。
- **最新のバックアップから復元**をクリックして一覧から選択します。

4 **次へ**をクリックします。

5 **参照**をクリックし、**ホットフォルダー復元先**の場所を指定します。

6 バックアップの元のフォルダー構造を保持するには、**元のフォルダー構造を保持**を選択します。

7 復元を試みる Hot Folders と同じ名前を持つ既存の Hot Folders が復元先にあり、それでも Hot Folders を復元する場合は、復元を試みる Hot Folders に別の名前を指定します。

メモ：名前を変更する場合、Hot Folders アプリケーションは、オリジナルのフォルダー名の先頭に「名前の変更」を追加したデフォルトのフォルダー名を提供します。

8 **次へ**をクリックします。

9 **復元の概要**を確認し、次のいずれかの操作を行います。

- すべての Hot Folders の復元が成功した場合には、**OK** をクリックします。
- いずれかのフォルダーまたはすべてのフォルダーの復元に失敗した場合は、フォルダーの読み取りおよび書き込みの権限があることを確認してから、**再試行**をクリックします。

  再試行ボタンは、フォルダーの復元処理に失敗した場合にのみ表示されます。再試行では、新しいファイルが復元されます。

Fiery IQ クラウドへのバックアップおよび復元

Fiery IQ クラウドからコンピューターにホットフォルダーをバックアップおよび復元できます。

Fiery IQ クラウドへのアクセス

Fiery Hot Folders コンソールウィンドウから Fiery IQ クラウドへアクセスできます。

1. **Fiery Hot Folders コンソール**ウィンドウで、**ファイル** > **Fiery IQ クラウドにバックアップおよび復旧**をクリックします。

   Fiery IQ クラウドサービスマネージャーウィンドウが開きます。

2. Fiery アカウントのログイン情報を使用して、Fiery IQ にサインインします。

Fiery Hot Folders をバックアップする

ホットフォルダーを Fiery IQ クラウドにバックアップできます。

1. **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウの**バックアップ Fiery Hot Folders** で、**今すぐバックアップ**をクリックします。
2. **完了**をクリックします。

   ホットフォルダーが Fiery IQ クラウドにバックアップされます。

Fiery Hot Folders を復元する

Fiery IQ クラウドからコンピューターにホットフォルダーを復元できます。

1. **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウの**バックアップ Fiery Hot Folders** で、**クラウドバックアップから復元**をクリックします。
2. **参照**をクリックして、ホットフォルダーを復元する場所を選択します。
3. **復元中に元のフォルダー構造を使用**チェック ボックスをオンにして、元のフォルダー名を保持します。
4. 復元パスに警告が表示された場合は、次のいずれかを行います。
   - **削除**をクリックし、**はい**をクリックしてホットフォルダーを削除します。
   - **名前の変更**をクリックして、フォルダー名を変更します。
   - **参照**をクリックし、画面の指示に従って新しい場所を選択します。
5. **復元**をクリックして、選択したホットフォルダーをコンピューターに復元します。
6. **完了**をクリックします。

   ホットフォルダーがコンピューターに復元されます。

Hot Folders のトラブルシューティング

Hot Folders アプリケーションで問題が発生した場合は、一部のトラブルシューティングオプションを使用できます。
より詳細な情報やサポートが必要な場合には、登録ユーザーは Fiery Communities でディスカッションを始められます。

Fiery サーバーが応答しない

- 次の操作を行ってトラブルシューティングします。
  - プリンターの電源がオンになっていることを確認します。

    プリンターの電源がオフになっている、あるいは節電モード機能が動作している可能性があります。
  - プリンターが接続されていることを確認する。

    管理者またはオペレーターが**印刷の一時停止**を選択している場合、**印刷の再開**が選択されるまで印刷ジョブは再開されません。
  - Fiery サーバーがネットワーク上に存在することを確認します。

    詳細は、Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する（7 ページ）を参照してください。
  - サーバー名や IP アドレスが変更されていないことを確認します。

    IP アドレスまたはサーバー名が変更されている場合、管理者はフォルダーのプロパティを編集し、新しいサーバー名または IP アドレスに再接続しなければならない場合があります。また、別の Fiery サーバーに接続することもできます。詳細は、異なる Fiery サーバーに既存のホットフォルダーを接続する（8 ページ）を参照してください。

ホットフォルダーが Fiery サーバーに接続できない

- 次の確認を行います。
  - Fiery サーバーが起動していることを確認します。
  - Hot Folders がアクティベートされていることを確認します。
  - **全ホットフォルダー停止**が有効になっていないことを確認します。

    全ホットフォルダー停止を選択する場合はジョブが処理されず、全ホットフォルダーを再開するまですべてのホットフォルダーが無効になります。追加した Hot Folders も無効になります。詳細は、すべてのホットフォルダーを停止して再開する（10 ページ）を参照してください。

- ホットフォルダーがアクティベートされている場合は、Command WorkStation などの他のユーティリティとの接続を試みます。

  他のユーティリティが接続されていない場合は、Fiery サーバーに関する問題が発生している可能性があります。この場合、接続が有効であることを確認します。フォルダーのプロパティを開き、IP アドレスをサーバー名に変更します。

- Mac OS でサーバー名を使用して接続する場合は、システムに DNS 名の検索機能が設定されていることを確認します。この機能が設定されていない場合は、Fiery サーバーの IP アドレスを使用します。DNS 名の検索機能を有効にするには、ネットワーク管理者に連絡してください。

Hot Folders コンソールに Hot Folder が表示されない

- **Fiery Hot Folders コンソール**ではない、Windows または Mac OS のファイル名変更機能を使用して Hot Folder の名前が変更されていないことを確認します。詳細は、ホットフォルダーの名前を変更する（11 ページ）を参照してください。

オリジナルファイルが見当たらない

オリジナルファイルが、コピーを作成することなく移動された可能性があります（ソースファイルと同じディスクパーティション上のホットフォルダーにファイルをドラッグすると、ファイルはコピーではなく*移動*されます）。

- 下位フォルダーの内容をチェックします。詳細は、オリジナルのジョブファイルにアクセスする（12 ページ）を参照してください。

ジョブ失敗

フォルダーのプロパティがファイルと一致していない、フォルダーがそのファイルの種類に対応していない可能性があります。

1 ログにアクセスして、ファイルの状況を表示します。

2 フォルダーのプロパティがファイルに一致しており、フォルダが対応していないファイルをダウンロードしていないことを確認します。たとえば、JDF フィルター用に設定された Hot Folder に JPEG ファイルをダウンロードすると、ジョブは失敗します。

最適なパフォーマンスの維持

プロダクション環境で最高のパフォーマンスを実現するために、次のガイドラインを推奨しています。

- Fiery Hot Folders アプリケーションをインストールする時は、Fiery サーバーではない、別のコンピューターにインストールしてください。
- Fiery サーバーコンピューターで Fiery Hot Folders を使用してください。ただし、使用可能なディスク容量を監視してください。

- Fiery サーバーの E ドライブを Fiery Hot Folders に使用しないでください。E ドライブは、Fiery システムソフトウェアが印刷ジョブを、キュー、ラスター画像、用紙カタログなどに保存する際に使用します。
- Fiery Hot Folders コンソールでジョブ消去の間隔を設定するには、**編集** > **環境設定**（Windows の場合）または **Fiery Hot Folders** > **環境設定**（Mac OS の場合）の順に選択し、**オリジナルファイルの消去**の間隔を選択します。